

APO Letter

2024
Vol. **89**
November

〈座談会〉

■ 心不全における地域連携と薬局薬剤師に期待すること

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院 循環器内科 部長
多田 毅 先生

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院 薬剤部 病棟薬剤室 主任
菅 直恵 先生



CONTENTS

● Round-table Talk 1
心不全における地域連携と
薬局薬剤師に期待すること

心不全における地域連携 7
そうごう薬局 水島中央店の取り組み

そうごう薬局 伊勢原店 8
専門医療機関連携薬局認定

がん治療における地域連携 9
一函館の取り組み

ファーマシーフォーラム2024 10

2024年 学会発表演題紹介 13

総合メディカルの人財育成 14

心不全における地域連携と 薬局薬剤師に期待すること



Round-table
Talk

日本においては120万人を超える心不全患者が存在し、心不全入院は年に30万件以上を数えるとされています¹⁾。死因としても悪性新生物(腫瘍)の24.3%に続き、高血圧性を除く心疾患が14.7%となっており、中でも心不全が全体の6.3%を占めています²⁾。今後も高齢者の増加に伴い高齢心不全患者が大幅に増え、世界中で「心不全パンデミック」と呼ぶべき状態が起こることが予想されています。

地域における心不全治療においては、病院、診療所、訪問看護ステーション、高齢者施設、薬局など、多職種の連携が必要不可欠です。薬局においては2024年度の調剤報酬改定で慢性心不全患者に対する調剤後薬剤管理指導料が新設されるなど、心不全の患者さんを確実にフォローアップすることが求められています。

今回は、「地域全体で心不全患者を診る」という理念のもと、2008年にいち早く心不全地域連携の会を立ち上げた倉敷中央病院 循環器内科部長の多田 毅先生と、病棟薬剤室主任の菅 直恵先生にご参加いただき、「心不全における地域連携と薬局薬剤師に期待すること」というテーマでお話をお伺いしました。

1) Okura Y et al. Circ J 2008 ; 72 : 489-491.
2) 厚生労働省 令和5年(2023)人口動態統計月報年計(概数)の概況

[出席者]



多田 毅 先生
公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院
循環器内科 部長



菅 直恵 先生
公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院 薬剤部
病棟薬剤室 主任



伊藤 正博
総合メディカル株式会社
岡山ブロック ブロック長



川本 和明
総合メディカル株式会社
そうごう薬局 水島中央店
薬局長



長尾 春香
総合メディカル株式会社
そうごう薬局 水島中央店
薬剤師



多田 毅 先生
倉敷中央病院 循環器内科 部長
プロフィール
岡山大学医学部、同大学院卒。聖路加国際病院、倉敷中央病院、尾道市民病院、岡山大学病院を経て、2010年4月倉敷中央病院循環器内科医長、2013年5月から現職。日本内科学会認定医・専門医、日本循環器学会専門医、日本心臓血管インターベンション治療学会専門医。

倉敷中央病院での心不全における地域連携の取り組み

伊藤 本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。私は総合メディカル岡山ブロックの責任者をしております伊藤と申します。当社は専門性を持った薬剤師の育成に力を入れており、心不全患者へのフォローアップについても取り組みを進めております。今回は早くから心不全地域連携に取り組まれている倉敷中央病院の多田先生、菅先生に現在の状況と今後の連携の在り方について、お話がお伺いできればと思っています。どうぞ、よろしくお願いたします。

多田 倉敷中央病院は岡山県西部の中核医療機関として、高度急性期医療および高度先進医療を担っています。年間800件ほどの心不全患者さんの入院治療を行っており、これは日本全体の医療機関の中でも最大規模となります。心不全は予後が悪く、当院退院後約1,100人のデータで見ても、1年後に16%は死亡、24%は再入院となっています。そこで心不全再入院を予防する取り組みとして、院内の心不全治療の質の向上と標準化、多職種心不全チームの構築、そして岡山県西部地区での心不全地域チーム医療連携を始めました。

質の向上については、心不全患者さんを全例登録し、治療方法と予後についてのデータベースを作成すること

で、今後の治療に反映しています。また均一化については、急性期治療標準化プロトコルを作成し、専門外の医師でも標準的な治療ができる体制を整えました。

院内での多職種連携については、主治医、心不全チーム医師、病棟看護師、訪問看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床心理士などによる多職種心不全チームで定期的にカンファレンスを実施し、管理が困難な患者さんの診療についてディスカッションを行うとともに、退院後のフォロー体制調整も行っています。また、訪問看護を導入した患者さんの退院後報告もカンファレンスで受けています。患者さんは医師には話さないこともあるので、こういった他職種から得られる情報は非常に重要です。

地域連携については、当院では現在のように心不全患者さんが急増する以前から副院長・心臓病センター長であった光藤和明先生(故人)が、「世界標準の地域医療」をモットーに、1981年に地域の医師との合同カンファレンスである「西部循環器プライマリーケアの集い」を開始しました。これは40年以上経過した現在も続いており、開催回数は500回を超えています。今ではよく言われるようになった「地域チーム医療」という言葉も、このカンファレンスですでに言及されています。そして2008年7月に、「心不全患者さんの再入院予防」を目標として、近隣の病院の先生方とともに「心不全を地域で診る」という理念のもと、心不全地域連携の会を立ち上げました。そして、職種および施設間のスムーズな連携を図るため、「地域の心不全手帳」を作成しました。本手帳は心不全患者さんの自宅での管理に関する教育や指導のみならず、患者さんに関わる全ての医療スタッフの連携手帳として使用できるよう構成しています。現在の心不全地域チーム医療の概念図をお示します(図1)。

当地域でのチーム医療の特徴としては、急性期病院と慢性期病院、そしてかかりつけ医の3施設が連携していることです。これを「3人主治医体制」と呼んでいます。心不全の場合、退院後も患者さんの状態をみながら治療薬の調整を行うことが必要になるので、すぐにかかりつけ医に戻すのではなく、慢性期病院などで様子を見て症状が安定してからかかりつけ医に戻すという体制としています。もちろん途中で症状が悪化した場合には、かかりつけ医から慢性期病院、あるいは当院で再度治療を行

います。さらに訪問看護ステーションや高齢者施設とも連携しており、連携のための情報共有ツールとして地域連携クリティカルパスや心不全手帳などを作成しているほか、倉敷地区心不全地域連携の会では月に1回勉強会を開催し、毎回50~70名程度の方々に参加していただいています。この会ではさとう薬局の長尾さんにも一度ご講演していただきました。また在宅の患者さんについては、訪問看護師さんと専用SNSでタイムリーに情報交換ができるようにしています。

菅 今回のテーマでもある薬局との連携については、2022年6月から退院時の情報提供書を薬局にお送りするという取り組みを始めています。共有を始めた当初、薬局の皆さまより、心不全の基本的な知識を学びたいという声があり、まずは心不全薬物療法のQ&A動画を作成し、当院薬剤本部のホームページで公開することを始めました*1。併せて心不全患者さんへの対応において、薬局でどのような困りごとがあるのかを知るために今年の3月に岡山県薬剤師会倉敷支部の会員薬剤師の先生方にメールでアンケートを実施し、63薬局102名の先生から回答をいただきました。その結果、「心不全を管理していく上で困っていることは何ですか」と尋ねると、6割以上の方が「心不全であること自体を薬局で判断することは難しい」と答えており、これが一番大きな問題であることがわかりました。

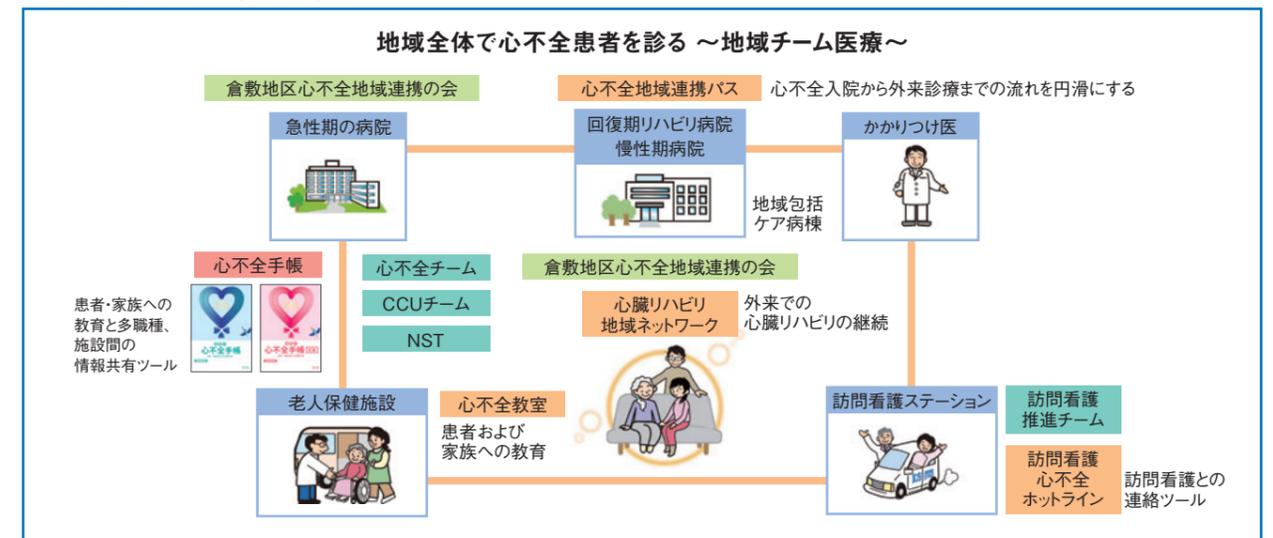


菅 直恵 先生
倉敷中央病院 薬剤部 病棟薬剤室 主任
プロフィール
徳島大学薬学部、同大学院修士課程修了。倉敷中央病院入職。2012年より病棟薬剤室。薬物療法専門薬剤師、心不全療養指導士。

また心不全手帳についても、薬局の認知度は17%にとどまっていた。そこで、薬局で心不全の患者さんであることを認識していただくため、お薬手帳の表紙に「心不全シール」を貼る取り組みを始めました。さらに心不全手帳を持っている場合には「手帳導入済み」のシールを貼付するなど、2種類のシールで対応しています(図2)。

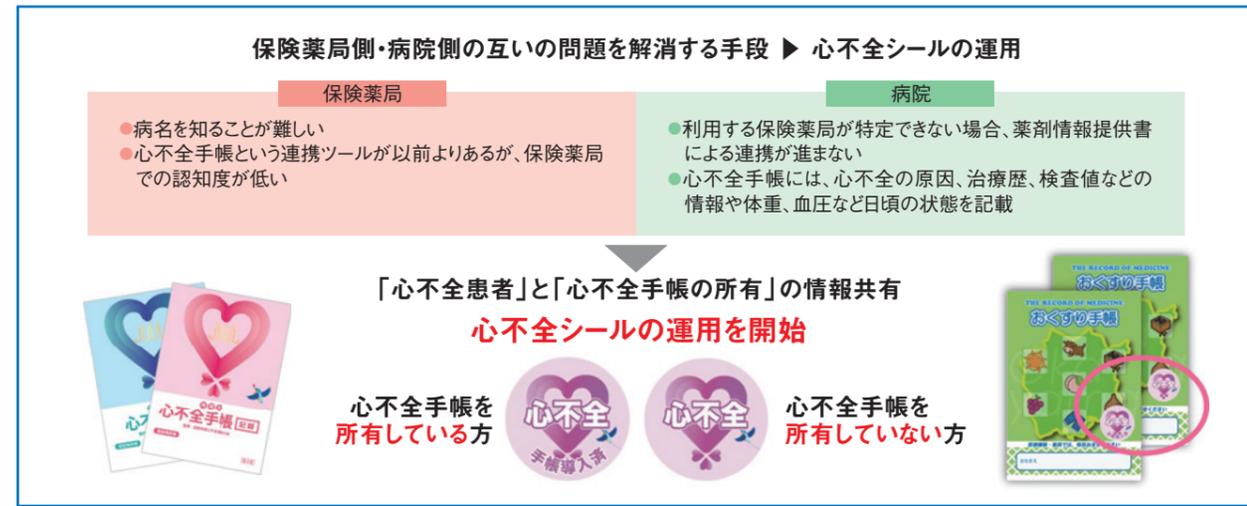
この心不全シールによって、ある程度は心不全の患者さんを見つけることができるようになると思いますが、心不全治療の最終的な目標は再入院や症状の悪化を防ぐこ

図1. 心不全地域チーム医療概念図



多田先生ご提供

図2. 心不全シールの運用



とです。先日、日本心不全学会と日本薬剤師会から「薬剤師による心不全服薬管理指導の手引き」*2が発行されたのも、慢性心不全患者に対する調剤後薬剤管理指導料が新設されたのも、薬局による心不全患者さんへのフォローアップや指導の重要性が認識されてきた結果だと思います。そこで当院でも薬局の皆さまにより効果的にフォローアップをしていただくために、心不全フォローアップシートを作成しました*1。心不全増悪のサインである体重増加、浮腫、労作時の息切れを早期発見することや、服薬アドヒアランス、塩分・水分の摂取状況を確認するなどのポイントをまとめています。

*1 倉敷中央病院薬剤本部「心不全薬物療法について」
<https://www.kchnet.or.jp/departments/pharmacy/medical/heartfailure/>
 *2 日本心不全学会「薬剤師による心不全服薬管理指導の手引き 第1版」
<https://www.asas.or.jp/jhfs/topics/shinhuzenhukuyakukanri.html>

双方向での情報連携を

長尾 私もそうご薬局 水島中央店で心不全患者さんへのフォローアップを行いたいと思い、倉敷中央病院の心不全地域医療連携の会に継続して参加しております。そこで学んだことを活かし、心不全で2ヶ月に1回入退院を繰り返していた在宅患者さんを担当しておりますが、多職種で丁寧な管理を行うことで2年間、再入院を防ぐことができています。多職種連携の重要性を感じているところです。

現在、倉敷中央病院の心不全フォローアップシートの活用を始めておりますが、何か問題がありそうだと感じた時に、そこからさらにどのような情報をどのように引き出せば良いのか悩むこともあります。また心不全手帳を見ても、それが良い状態なのか症状が増悪しているのかを把握す

ることは中々難しいということもあり、やはり薬局薬剤師として心不全治療全般に対する知識を深める必要を感じています。それは個人にとどまるのではなく、薬局全体、地域全体でベースアップを図る必要があるため、他薬局の若手の薬剤師を呼んで勉強会を開くなどしています。

多田 例えば体重に関することでは2週間で2kg増加というのは多いので、手帳の中でも「2週間で2kg増える場合は、かかりつけ医と相談してほしい」ということを書いています。また、退院時からの経時的な変化も追っていただいて、異常があると感じたら「ちょっと診てもらったほうがいいのかも」と言ってもらえれば早期受診につながります。

長尾 ありがとうございます。あと薬剤部による、退院時の情報提供書については、とても助かっています。退院した後、これまでのようなきめの細かい治療が受けられないのではないかと不安を感じている患者さんにも、「病院薬剤師の先生から情報をいただいています」と伝えれば安心していただけますし、何よりも入院時の詳しい情報をいただけるのは、とてもありがたいです。

ただ倉敷中央病院退院後は、当薬局の場合ですと、近隣の慢性期病院やかかりつけ医と連携して患者さんを診ることになるので、その後の経過について倉敷中央病院に情報提供をした方が良いのかどうか、迷うところもあります。一方通行の情報提供ではなく、双方向で情報連携ができればと思っているのですが、病院としてはいかがでしょうか。

菅 私個人としては、退院後の経過を知ることさまざまな振り返りができるので、とても有用だと思います。そういったところを病院薬剤師も知るべきだと思いますし、それがないと地域連携の質も上がらないと思います。

長尾 先ほどお示しいただいた連携の図(4ページ、図1)の中で、訪問看護ステーションとは心不全ホットラインでつながっているとありましたが、薬局としてもその中に入ることができるのであれば、より緊密な連携が図れるのではないかと感じました。

多田 心不全ホットラインについては、メールやWeb会議システムでタイムリーに情報共有を図っています。薬局もその中に入っていて、例えば浮腫が心配な患者さんがいれば病院に情報として提供いただくことは可能だと思います。

菅 病院としても薬局との連携は始めたばかりなので、薬局に介入してもらうことでどの程度の効果があったのかなどは、まだ未知数です。薬局サイドから介入情報などはフィードバックしていただいたり、成果を学会で発表するなどのアクションを起こしていただければ、病院側もモチベーションが向上し、何より一緒に患者さんを診ているという意識が高まると思います。

多田 これまでの経験で、心臓リハビリを継続している患者さんでは再入院が少ないと感じています。その要因として、運動の効果ももちろんですが、それ以上に定期的に医師、看護師、理学療法士とコンタクトが取れていることで普段の生活での問題点や浮腫などが早めにキャッチできていることがあると思います。薬局もそのような窓口の一つとして機能してもらえれば、とてもありがたいですね。

薬局がハブとなった地域連携

川本 私たちは普段、水島中央病院からの処方箋を持つ心不全患者さんに対応する機会が多いです。フォローアップシートなどで得られた情報について、どのような内容をフィードバックすればいいのか、迷うこともあります。

多田 訪問看護師がみているような血圧、体重、浮腫、息切れの4つだけでも経過が十分に分かるので、そういった情報を提供することは非常に有用です。

あと慢性期病院やかかりつけ医との連携においては、心不全手帳もぜひ活用していただきたいと思います。ここには医療者記録用として心不全の原因や合併症、処方歴なども記入できるようになっていますので、薬剤が変更や減薬になった際には特に注意してフォローしていただければと思います。

長尾 心不全手帳については私自身もまだ十分に活用できていないのですが、地域の全員が自信を持って心不全手帳を使いこなせるように、どのような情報が載っていて、どのような説明をするとうまいかということが分かるように、他の薬局薬剤師と一緒に勉強会をしたいと考えています。

菅 地域の薬局薬剤師の心不全フォローアップの質向上のためにも、心不全手帳等を使っただけだとありがたいですね。

長尾 あと薬局では、病院やかかりつけ医との連携にとどまらず、独居や老老介護の状態、認知機能も落ちてきているような患者さんについては、高齢者支援センターなどに連絡してケアマネージャーにつないでいただき、介護保険の申請までお願いするようにしています。医療従事者だけではなく、このように行政とも連動できることは薬局の大きな強みだと思っていますので、今後もこうした薬局がハブとなった地域連携を推し進めていきたいと思っています。

多田 それは素晴らしいですね。そうご薬局では在宅にも対応しているのですか。

伊藤 水島中央店では、現在10名程度の在宅患者を担当しています。

菅 倉敷中央病院は基本的に院内処方、普段は薬局薬剤師の先生とお話をする機会がほとんどなく、また患者さんのご自宅での様子などを把握することは中々難しい状況です。そのような中でそうご薬局さんのように、医療者のみならず行政とも連携し、在宅にまで対応している薬剤師さんがおられることは、とても心強かったです。ぜひ、地域連携の枠組みの中で、今後も一緒に地域医療の向上に取り組んでいただきたいと思います。

伊藤 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。この座談会が新しい地域連携の第一歩になればと願っています。今後とも、よろしくお願いいたします。

(本座談会は2024年8月に実施されました)

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
 岡山県倉敷市美和1-1-1
 病床数 1,172床、入院1日平均患者数 954人
 外来1日平均患者数 2,516人
 職員数 3,818人(内、薬剤師99人)
 心不全入院 872人/年(2022年度DPCデータより)
 (2024年4月1日現在)

心不全における地域連携 そうごう薬局 水島中央店の取り組み

多職種がつながる場としての薬局づくりを目指します

そうごう薬局 水島中央店 長尾 春香

倉敷中央病院に入院されていた心不全の患者さんについては、退院後は地域の慢性期病院やかかりつけ医が情報連携しながら診ることになります。そうごう薬局 水島中央店は近隣の水島中央病院の処方箋を主に応需しているため、心不全の患者さんについても、水島中央病院と連携して対応しています。実際、倉敷中央病院で作成されている心不全手帳を活用することで、再入院を防ぐことができた事例を経験しました。70歳代の男性の患者さんでこれまで2カ月に1回程度心不全の増悪で入退院を繰り返していたのですが、退院時に心不全手帳の活用を提案し、医師、訪問看護師、ケアマネージャー、訪問ヘルパー、デイサービス職員の方々が手帳に体重や浮腫、日常生活での疲れやすさなどを記録し共有することになりました。その結果、夏場の食欲低下に伴う体重・水分量の減少や、冬場の急激な体重増加なども把握が可能となったことで、適切な対応を行うことができたと思います。

地域で多職種が連携するにあたっては、それぞれの知識の向上とともに顔の見える関係を作り、双方向で情報を共有することが必要です。今回の座談会では、倉敷中央病院も同じ意向であることが確認できましたので、今後は一方的に情報を受け取るだけでなく、双方向の情報共有を目指して心不全療養指導が継続できればと思いました。また心不全治療に関して薬局でも知識のベースアップが必要と考え、近隣の薬局・病院スタッフの方と「これからの心不全連携を考える会」を立ち上げ、これまでに2回勉強会を開催しました。特に調剤後薬剤管理指導料2に関して、どのようなフォローアップを行えばよいか、どういった情報共有が必要か意見交換をしております。今後もより連携が出来る関係性作りを目指して継続して実施していきたいと思っております。

薬局薬剤師は薬の専門知識だけでなく、食生活・健康・介護など幅広く、生活に密着した知識を持っているので、今後は薬局の外に出て、多職種と連携しながら積極的に患者と関わり、フォローアップができる薬剤師が求められます。「みんなの健康ステーション」として、生活・介護・医療がつながる場所としての薬局づくりを目指してまいります。



地域で主催している勉強会「これからの心不全連携を考える会」

第1回 (2023年12月)

「心不全での再入院を防ぐために、心不全患者にどのような服薬指導・フォローアップを行えばよいか」

参加者：11名(病院薬剤師、薬局薬剤師/現地+オンライン)

発表内容：「心不全ってどんな病気?」、「心不全手帳を活用して多職種連携を行った症例発表」、「心不全患者の服薬指導どうする?症例検討会」

第2回 (2024年4月)

「新設された調剤後薬剤管理指導料はどのように算定するのか」

参加者：21名(病院薬剤部長・薬剤師、理学療法士、看護師、薬局薬剤師/現地+オンライン)

発表内容：「新設された調剤後薬剤管理指導料について」、「心不全フォローアップシートについて」、「心不全リハビリについて」、「心不全フォローアップシートを活用した症例検討会」



そうごう薬局 水島中央店
岡山県倉敷市水島青葉町 2-40
TEL:086-448-2301 FAX:086-448-2302
(開局日、開局時間) 月~土 8:30~21:00
日 8:30~17:00



そうごう薬局 伊勢原店 専門医療機関 連携薬局認定

2024年2月、そうごう薬局 伊勢原店が総合メディカルグループで6件目となる専門医療機関連携薬局となりました。薬局長の田口絵梨さん、BPACC[®]の資格を持つ荒井元志さん、糖尿病治療に積極的に取り組む竹村美沙さんに、今後の抱負などをお聞きしました。

※BPACC: 外来がん治療専門薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会認定)

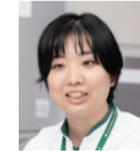


そうごう薬局 伊勢原店
神奈川県 伊勢原市田中292-1
TEL:0463-97-4001 FAX:0463-97-4002
(開局日) 月~土(祝日を除く)
※毎月第3土曜日に薬剤師による薬と健康の相談会実施
(開局時間) 月~金 8:30~18:00
土(第2,4) 8:30~15:00
土(第1,3,5) 8:30~12:30



健康食品などの販売も積極的にしています

COMMENT



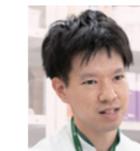
そうごう薬局 伊勢原店 薬局長 田口 絵梨

地域のつながりを大切に、温かみのある薬局としてまいります

伊勢原店は月間約3,600枚の処方箋を応需しており、そのうち90%以上が隣接するJA神奈川県厚生連 伊勢原協同病院(以下、伊勢原協同病院)からのものです。今回、専門医療機関連携薬局の認定取得にあたっては、伊勢原市のがん診療連携拠点病院である東海大学医学部付属病院(以下、東海大病院)の前にある薬局がすでに専門医療機関連携薬局の認定を取得しており、東海大病院はもちろん、薬局や伊勢原協同病院からも多大なご協力をいただきました。

私は学生の時からがん治療に携わりたいという想いが強かったのですが、入社当時はがん関連の処方箋を応需してどうして良いのかよく分かりませんでした。そんな中で会社の薬剤師活躍支援プログラム(がん分野)に参加し、同様に専門薬剤師を目指す仲間と出会うことができ、勉強を続けることができています。目標の1つであった専門医療機関連携薬局は、2024年2月に取得することができたので、今後は自分自身の専門性をより高め、BPACCの資格を取得することも目指してまいります。

伊勢原店では無菌調剤にも対応していますので、在宅での連携をさらに広げるとともに、がん以外では、行政と連動した糖尿病の啓発活動などにも注力したいと考えています。地域のつながりを大切に、ひとり一人の患者さんとしっかりと向き合い、温かみのある薬局としてまいります。



そうごう薬局 伊勢原店 専門薬剤師 荒井 元志

伊勢原店ならではの取り組みを積極的に発信してまいります

私は2023年11月に伊勢原店に異動しました。隣接して総合病院とがん診療連携拠点病院、そして専門医療機関連携薬局が2薬局ある地域は全国的に見ても珍しいのではないかと思いますので、この4施設で新しい取り組みができるのではないかと模索しているところです。手始めとして月に1回、この2病院、2薬局で勉強会を開催していますが、今後は他の薬局も招いて、より地域連携を広げ、そのような取り組みを外部に積極的に発信していきたいと考えています。

私自身としては、会社の中でもがんの資格取得を目指す人が増えてきているので、これからはそういった人々を支援する側に回り、全国で専門薬剤師、専門医療機関連携薬局を増やしてまいります。



そうごう薬局 伊勢原店 竹村 美沙

患者さんを確実にフォローアップし、サポートをしっかりと行います

私は2023年4月に総合メディカルに入社しましたが、それまでは病院の薬剤部に勤務していました。病院勤務時は糖尿病の患者さんへインスリン自己注射や外来患者さんには低血糖時の対応方法なども指導していましたが、病院では指導後にその患者さんのフォローアップを継続して行うことは難しく、指導をした患者さんをきちんとフォローアップしたいという想いが強くなり、総合メディカルへの転職を決めました。現在はアドヒアランスや副作用の状況などについて、月に20件程度実施しています。

私自身は本年6月にKLCD(神奈川県糖尿病療養指導士)の資格を取得し、現在は会社の薬剤師活躍支援プログラム(糖尿病分野)に参加して、糖尿病薬物療法認定薬剤師の資格取得を目指しています。今後は患者さんの生活指導や腎機能が低下した患者さんのサポートも積極的に行ってまいります。

(本インタビューは2024年8月に実施されました)

がん治療における地域連携 — 函館の取り組み —

がん治療や在宅対応において、行政や地域のクリニック、訪問看護ステーションとの連携は欠かすことができません。函館市において、地域連携によるがん治療に積極的に取り組んでいる石川中央薬局の田中秀幸さん、そうごう薬局 湯の川店の大槻一彰さんにお話をお聞きしました。

石川中央薬局



これからも全員で信頼していただける活動を続けてまいります

石川中央薬局 薬局長 田中 秀幸

石川中央薬局は函館市に位置する石川学園通メディカルビルという医療モールの中にあります。このモールには内科クリニックを始め、乳腺外来、透析センター、リウマチ・整形外科、耳鼻科が入居しており、総合メディカルグループの薬局も石川中央薬局、クローバー薬局、そうごう薬局 函館石川店の3薬局があります。その中で当薬局は乳腺外来からの処方箋が約半分程度を占めており、近隣に婦人科のクリニックもありますので、女性の患者さんが多いのが特徴です。在宅調剤は現在、無菌調剤、キヤドポンプ*にも対応しています。クリニックや看護師との連携については、道南圏の医療情報連携サービスである「道南Medlka」を使用することで在宅訪問時の情報について連携ができていますし、ご自宅でキヤドポンプを導入される患者さんについては、退院時カンファレンスにも参加して、顔の見える連携を継続しています。

がん終末期の患者さんでキヤドポンプを利用することにより、息子さんの結婚式にも立ち会えたという方がおり、ご本人やご家族からとても感謝されたことがあります。土地柄、在宅対応については移動時間も長くなり、限られた人数での対応は大変な面もありますが、何よりも患者さんご家族の笑顔が支えになります。これからもスタッフの健康面にも配慮しながら、患者さんご家族に引き続き信頼していただける活動を全員で続けてまいります。

*キヤドポンプ：麻薬の持続皮下注射



石川中央薬局
函館市石川町350-18
TEL:0138-47-6600 FAX:0138-47-6622
(開局日)月～土(祝日を除く)
※毎月第1水曜日午後12時～15時 薬と健康の相談会実施
(開局時間)月、火、木 9:00～18:00
水 9:00～17:00
土 8:30～12:30



同じ医療モール内のクローバー薬局（写真左）とそうごう薬局 函館石川店（写真右）

そうごう薬局 湯の川店



全員が安心してがん治療に対応できる環境を作ります

そうごう薬局 湯の川店 管理薬剤師 大槻 一彰

湯の川店は月に800～1,000枚程度の処方箋を応需しており、そのうち7割程度が近隣の内科医院からになります。がん関連の処方箋は月に数件程度ではあるのですが、以前にがんの処方箋を応需した際に非常に戸惑ってしまったこともあり、今後は自信をもって対応できるようになりたいと考え、会社の薬剤師活躍支援プログラム(がん分野)に参加しました。その結果、処方箋から読み取れる情報量が増え、患者さんからの的確な情報を聞き出せるようになってきました。また同時期にJASPO(日本臨床腫瘍薬学会)に参加した際、函館でがん関連の勉強会が実施されていることを知り、2年前から参加しています。ここには函館市内の病院の薬剤師のほか、そうごう薬局 函館石川店の薬局長も参加しています。この勉強会で知り合った薬剤師に実際の症例について相談できることも、私にとってがん患者さんへの対応において自信につながっています。

私自身としては、まずは学会が認定する外来がん専門薬剤師資格の取得が目標です。今後がん患者さんは間違いなく増えていくので、薬局のスタッフ全員が安心してがん治療に対応できる環境を作りたいと考えています。そのために社内でもがん治療に興味を持っている薬剤師にも、支援プログラムや勉強会への参加などをサポートしています。



そうごう薬局 湯の川店
函館市湯川町3丁目24-3
TEL:0138-36-2251 FAX:0138-36-2252
(開局日)月～土(祝日を除く)
(開局時間)月～水、金8:30～18:00
木8:30～16:30
土(第1,3,5) 9:00～12:00
土(第2,4) 9:00～13:00

ファーマシーフォーラム2024

学びを深め、薬局の価値を高めよう

2024年9月8日(日) 9:30～16:15
東京サンケイビル 大手町サンケイプラザ



2024年9月8日、総合メディカル東京本社のある東京サンケイビルを会場として、26回目となるファーマシーフォーラムが現地参加とオンライン配信のハイブリッド形式で開催されました。今回は、「学びを深め、薬局の価値を高めよう」というテーマのもと、会場には全国から約400名の薬剤師・事務スタッフ・管理栄養士などが参加し、多くの発表と活発な議論が行われました。

ファーマシーフォーラムとは

全国の総合メディカルグループの薬剤師・薬局事務が、日頃の業務工夫や研究の成果を発表する場として、1998年より社内学術大会を年1回開催し、今年で26回目となります。

患者や地域へ貢献できた良い取り組みは社内でも共有するだけでなく、社外の学会などでの発表にもつなげています。大会の企画・運営は、毎年全国から選ばれた薬剤師・事務スタッフにより実行委員会を編成して行っています。企画から開催まで約1年間の活動を通して、社内外の関係構築やマネジメントを学び、これからの薬局づくりに貢献できる人材の育成を目的としています。



テーマへの想い

わたしたちが人々の健康増進に寄与するには、絶えず薬学、医学の成果を吸収しなければなりません。また、医療を取り巻く環境が大きく変化する昨今においては、薬学、医学の他に、変化に対応するため、様々な知識が必要とされています。そして、わたしたち薬局が、人々に選ばれる薬局になるためには、日々の研鑽で得た知見を社会へ発信し、薬局の価値を示し続けなければなりません。実行委員のミッションである「薬局機能の深化・進化に貢献する」を果たし、ビジョンである「組織としての発展・学びの場を創る」を実現するため、本テーマといたしました。

総合メディカルグループ ファーマシーフォーラム2024



ファーマシーフォーラム2024実行委員会のメンバー

主なプログラム

- 特別企画 「在宅医療と医療DXの現状と展望」
「在宅医療の現状と展望」 演者:在宅推進部 部長 高木 和江
「医療DXの現状と展望」 演者:デジタル事業推進部 部長 齋藤 慶聡
- 特別企画 「活躍社員を知ろう!」動画上映
- 特別企画 「地域とつながる健康イベント紹介」ポスター展示
- 一般演題発表 薬剤師演題(口頭・ポスター)45演題
RCS(薬局事務)演題(口頭・ポスター)5演題



特別企画
「在宅医療の現状と展望」
在宅推進部長 高木 和江



特別企画
「医療DXの現状と展望」
デジタル事業推進部長
齋藤 慶聡



特別企画
「活躍社員を知ろう!」動画上映



特別企画
「地域とつながる健康イベント紹介」
ポスター展示

開会の挨拶 (一部抜粋) | 総合メディカル株式会社 代表取締役社長 坂本 賢治



ファーマシーフォーラムは、今年で26回目を迎えます。各薬局での優れた取り組みや知見を共有し、それを全国で展開することにより、「地域に総合メディカルグループの薬局があって良かった」と言われるような、薬局づくりにつながるものと確信しています。

今回の開催テーマは、「学びを深め、薬局の価値を高めよう」です。新たな保険薬局のあり方が求められるなか、互いの研鑽から学びを得て、それを深め、積極的に展開すること、私たち一人ひとりの行動が、薬局の価値を高めることにつながってほしいと思います。

変革の時代、私たちが常に念頭に置かねばならないのは「誰のための仕事か」ということです。患者さん・地域住民・一緒に取り組む多

職種の方々と関わるなかで、それぞれの立場に立って考えるということを忘れてはいけません。

そういった方々に感謝される仕事をすることが、社員の皆さん一人ひとりの成長につながり、ひいては地域における総合メディカルグループの薬局の価値向上にもつながります。

患者さんと地域に寄り添い、「また、あなたに会いたい」と言っていたら、皆さん一緒に取り組んでいきましょう。

運営部長コメント

今年は数年ぶりに東京1拠点での開催となり、全国から400名の薬剤師・薬局事務が一堂に会しました。その準備のため全国の各運営部、グループ会社から16名の精鋭が集まり実行委員会を組成しました。ファーマシーフォーラム2024開催に向けて実行委員は日々の業務と並行し、各種立案や協議を重ね、当日は盛況のうちに終了することができました。本当にありがとうございました。併せて支援いただいた、社内の関係部署の皆様にも心より御礼申し上げます。

2024年度は調剤報酬改定もあり、薬局において変革の年となっています。しかし日々ご利用いただく患者さん一人一人に対して健康増進に向けた貢献をしていくという基本は変わりません。当日発表された取り組みは、皆さんが現場で創り上げた「成果」です。社内でもノウハウ共有し、さらには社外発信していき、薬局の職能発揮を通じ薬局の価値を高めていくきっかけとなると確信しています。

来年のファーマシーフォーラムに向けた新たな価値創造の「種」が現場から発信され続けていくことを期待しています。



神奈川・静岡薬局運営部長
長澤 陽

一般演題発表 (一部抜粋)



薬局機能向上部門 最優秀賞

在宅医療における麻薬注射薬処方への対応に関する課題の調査

みよの台薬局 要町店 山下 翔子



実際に麻薬の無菌調剤に対応した実績がある薬局は少なく、その実態は十分に明らかになっていない。そこで、在宅医療における麻薬注射薬の処方の課題を明らかにし、より効率的な麻薬の無菌調剤を行う体制を構築するため、当薬局の麻薬注射薬における処方設計および薬局からの支援状況の現状調査・分析を行った。



かかりつけ薬局機能向上部門 最優秀賞

ドライパウダー吸入製剤使用患者に対する吸入力確認と継続的指導の有用性評価

ハロー薬局 則武店 垣内 雄二



ステロイド吸入のドライパウダー吸入製剤(以下、DPI)の服薬指導時に、吸引力不足により吸入できない高齢の患者を経験することも多い。また医療機関でも継続的な吸入指導は十分ではなく、吸入手技に問題がある場合も多い。そこで、DPIの吸入手技に問題のある患者に対する薬剤師の吸入指導の有用性を評価する目的で、吸入トレーナーを用いた吸引力の確認を行い、必要に応じて、医師へデバイスの変更提案を行った。その上で吸入指導を継続し、喘息症状を評価することで、薬局薬剤師の介入効果について検証した。



RCS部門 最優秀賞

保険薬局の管理栄養士によるフレイル予防を目的とした健康相談会の成果

そうごう薬局 HAT神戸店 河合 聡美



健康サポート薬局の役割として、高齢者のフレイルを早期に発見し、食事や運動に関する支援を行うことが期待されている。そうごう薬局 HAT神戸店では管理栄養士が常駐し、日頃より管理栄養士とともに健康相談会を開催している。今回、フレイルチェック、フレイル予防に必要な栄養に関する講義を行ったため、その成果について報告する。

実行委員長コメント

ファーマシーフォーラム2024は、関係する皆さんの多大なご支援があり、16名の実行委員とともに開催することができました。心より感謝申し上げます。

私自身、ファーマシーフォーラムを通じて、ヒトの力、チームの力を深く学ぶ1年となりました。今後、この経験をいかし、如何なる困難に直面しても、ヒトの力、チームの力を信じて、患者さんの笑顔のために、「行動」していきます。

今大会でも患者さんや地域に寄りそう取り組みが多く紹介されました。当日参加した約600名の一人ひとりが深めた「学び」を薬局の価値を高める「行動」に移したら、それはとてつもない力となるでしょう。

これからも地域に寄りそう価値ある薬局となるため、今回のフォーラムで得た学びを次の開催に向けてつなげてまいります。



そうごう薬局
トレッサ横浜店
杉戸 雄四郎



表彰式



薬局事業本部長
下川 友香理



受賞者の皆さん



閉会式
(総合メディカル株式会社 代表取締役副社長
三木田 慎也)

2024年 学会発表演題紹介

第37回日本臨床整形外科学会学術集会 火の国学会・熊本 人生100年への挑戦 ～運動器新時代～

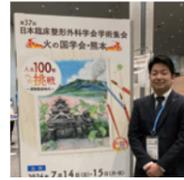
開催日:2024年7月14日(日)～15日(月・祝) 熊本城ホール(熊本県熊本市)

●口頭発表

保険薬局と診療所の連携による骨粗鬆症治療中断を回避するための取組み

■発表概要

そうごう薬局 玉名亀甲店では、骨粗鬆症薬物治療のアドヒアランス向上を目的として、2016年より診療所と連携して骨粗鬆症治療薬の中断者に連絡を取る取り組みを行ってきた。その取り組みをさらに進化させ、2020年10月より骨粗鬆症治療薬を新規処方された患者さんに対し、開始1週間後に薬局から電話でフォローアップを行う取り組みを開始した。電話を実施できた群とできなかった群での1年間の継続率を比較し、取り組みの有用性の検証について報告した。



そうごう薬局 玉名亀甲店
池田 和也

第11回JADEC年次学術集会

チームの学びを紡ぎ、実践するダイアベティスケアのサイエンスとアート

開催日:2024年7月20日(土)～21日(日) 国立京都国際会館(京都市)

当グループより、薬剤師2名が発表しました。

●ポスター発表

保険薬局における1型糖尿病の患者会の実施報告

■発表概要

糖尿病に関する健康教室や栄養教室は2型糖尿病に対応した内容が多く、1型糖尿病に適した会の開催は少ない。また医療機関単位で開催されることが多く、他の医療機関の患者は参加しづらい現状がある。そうごう薬局 天神中央店では、複数の医療機関から1型糖尿病患者の処方に応需しているため、医療機関の制約なしに、1型糖尿病の患者同士で情報交換する機会を提供することを目的に企画した1型糖尿病の患者会の開催について報告した。



そうごう薬局 天神中央店
浅野 陽香

第18回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会

疾患横断的に腎臓を学ぶ

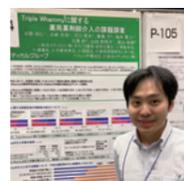
開催日:2024年9月7日(土)～8日(日) 札幌コンベンションセンター(札幌市)

●ポスター発表

Triple Whammyに関する薬局薬剤師介入の課題調査

■発表概要

レニンアンジオテンシン系阻害薬、利尿剤、NSAIDsの3剤併用(Triple Whammy)は、高齢者やCKD G3b以降の患者では、避けることが望ましいとされている。しかし、薬局ではTriple Whammyを発見しつつも処方変更提案などの介入に至らない場合が多いことから、Triple Whammyの知識不足以外に、薬局薬剤師が実際に介入する際の課題があると考え、薬局薬剤師に対しTriple Whammyに関する調査を行った。



そうごう薬局 成田土屋店
中野 将仁

第57回日本薬剤師会学術大会

彩

開催日:2024年9月22日(日)～23日(月・祝) 大宮ソニックシティ、さいたまスーパーアリーナ、パレスホテル大宮(埼玉県さいたま市)

当グループより、薬剤師9名が発表しました。

●ポスター発表

クラウド型電子薬歴の「薬局間での情報共有機能」の利用による薬の適正使用に関する調査

■発表概要

クラウド型電子薬歴「Musubi(カケハシ社製)」の導入により、総合メディカルグループ薬局間における薬歴や問診等の患者情報の閲覧が可能となった。今回、この薬局間での情報共有機能を薬の適正使用に活用することを目的に、実際に薬の適正使用につながった事例を収集・分析し、有効な活用方法について検討した。



そうごう薬局 下境店
比嘉 良太

総合メディカルの人財育成

総合メディカルでは、マネージャーを目指すための研修や、薬剤師としての専門性向上を目指すための研修などを多数実施しています。本コーナーでは人財育成部 白濱シニアマネージャーより、研修でお伝えしている内容の一部を連載にてご紹介いたします。

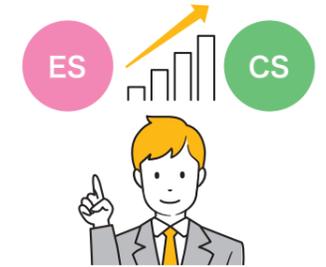
マネージャーに必要なキーワード

「合理化」について

業務改善のための薬局長の役割

「合理化」とは、省力化や組織化によって能率を上げ、生産性を高めようとする事です。業務オペレーションの中で「ムリ・ムラ・ムダ」を探し、改善することもマネージャーのミッションのひとつです。

一方で、行き過ぎた合理化によって医療の安全や顧客満足・従業員満足が損なわれないよう、様々な観点から取り組む必要があります。



薬局長を目指す方のための研修(マネジメント研修ファースト)について

■研修概要

本研修では、理想の薬局をつくるために、薬局長に必要なマインド・知識・スキルを約3か月にわたって学びます。eラーニングや講義のほか、グループ討議を通じて受講者同士で学びあう場を提供しています。

■研修内容 「ESとCS」について

「合理化」に関連するキーワードとして「サービス・プロフィットチェーン」という考え方があります。これは、「従業員満足(ES:Employee Satisfaction)」「顧客満足(CS:Customer Satisfaction)」「業績」の3つが良い循環を生み出すことを示したモデルです。従業員満足度が高まることで、生産性や貢献度が増し、顧客サービスの品質が向上します。これによって顧客満足度が高まり、顧客側に愛着が生まれ、リピートによる利用増加や、紹介による新規顧客の獲得など、収益性や利益率の上昇につながります。研修では「サービス・プロフィットチェーン」に基づいた店舗運営に関する検討を行っています。

専門性向上に必要なキーワード

「問題解決と行動変容」について

「問題志向型システム(POS)」とは

医療の目的はQOLの向上であり、薬剤師の行動原則をPOS(Problem Oriented System:問題志向型システム)といいます。

POSとは、薬物治療の成功を妨げる問題を把握し、解決する一連のサイクルを指します。問題を把握するためには、患者さんの情報と知識を結び付けて評価することや、患者さんの気持ちや感情を把握するためのコミュニケーションスキルを身に付ける必要があります。



コミュニケーション研修について

■研修概要

講義やeラーニングにより基礎知識を習得した後、模擬患者との応対演習を実施しています。自身の応対を動画で客観的に振り返るとともに、相互フィードバックによりケアステップの理解を深め、実際のケアに活かすポイントを学びます。

■研修内容 「行動変容を促すことについて」

患者さんの行動や習慣に改善すべき問題がある場合、問題解決として「患者さんに行動変容を促す」ことが必要です。

患者さんの行動変容には、「受け入れる・実行する・定着する」の3つのステップがあります。

薬剤師が提案するプランを受け入れてもらうためには、患者さんとの信頼関係が前提となり、その礎となるのがマナーです。

また、プランを実行してもらうにはニーズも踏まえた有効な内容を提案すること、さらに行動の定着には、誉める・認めるというコミュニケーションも重要です。応対演習では、提案に対して患者さんの反応や実行性の確認を行ったか、振り返りを行っています。

vol.89

2024年11月発行 発行／総合メディカル株式会社
〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名 2-9-23
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

